

鍋島議員、大下議員が聴く
SATO☆くろせ
地域食堂でつながる
笑顔の輪

表紙写真／話をお聞きした皆さん

東広島市内では様々な場所で子ども食堂、地域食堂が運営されています。

今回、黒瀬町で地域食堂を運営されている「SATO☆くろせ」のお二人にその魅力、今後の展望についてお伺いしました。

話をお聞きした方



SATO☆くろせ 地域食堂
代表 上満 弥生さん



SATO☆くろせ 地域食堂
スタッフ 上満 彩乃さん

S(しゃべる) A(あつまる) T(たべる) O(おもつ)

みんなきんさい 地域の居場所

Q 地域食堂の活動を始めたきっかけを教えてください。

弥生さん 30年以上前から自宅で行ってたそろばん塾で、子ども食堂のようなことをしていました。自分の子育てもあって一時中断していたのですが、2017年頃からもう1回子ども食堂を

始めたいなという思いがあって、2018年8月に自宅で再開しました。

それから新型コロナウイルス感染症の影響もあって、集まって食べるのではなく、お弁当配付に切り換えていたのですが、社会福祉協議会に相談したところ、社会福祉法人「倫」が「就労サ

ポートありんこ」の食堂を開放してくださるとの話になり、2020年7月から地域の方も参加される地域食堂として始めました。

Q 活動の中でどういった時にやりがいを感じますか。また活動の原動力は何ですか。

弥生さん みんなの笑顔がやり

がいです。学校ではない場所です。みんなと関わり合っていて、ご飯と一緒に食べたり遊んだり、外で走り回ったりも出来ます。また、大学生スタッフも来てくれて子どもたちの勉強を見てくれたり、みんなで遊ぶゲームを考えてくれたりします。月1回開催の地域食堂ではありますが、会場周辺には一人暮らしの高齢の方もおられ、子どもたちだけではなくその方々も集まって「元氣じゃったん？」と声を掛けあって世代を超えた「コミュニケー



- ① 取材風景
- ② 当日のメニュー表
- ③ 食事内容
- ④ 盛り付けの様子
- ⑤ 集まった皆さんの食事風景
- ⑥ 大学生に勉強を教えてもらう子どもたち

シヨンが生まれています。またご高齢の方は走り回る子どもたちがいなくても「普段ない」としゃべっていることを楽しみにしているとも聞きます。時にはけんかもありますが、子どもたちの騒ぎ声と笑顔その賑やかさが励みですね。

Q 運営面での地域との関わりを教えてください。

弥生さん お米は地域の方からたくさん寄附を頂いており、余ったものは社会福祉協議会を通じて支援が必要な家庭等にお届けしています。野菜は町内のスーパーから賞味期限の近いものを寄附して頂いたり、地域の方からも様々なものを頂いています。

また、地元企業さんからも寄附を頂いていて、とても助かっています。一緒に調理をしてくれるスタッフさんは、地域食堂を始めた当初からの方も含め、地域の方が毎回7、8名は参加してくれて本当に助かっています。

Q 活動を行っていく上で大切にしていることはありますか。

彩乃さん 継続していくことで

す。母親の立場からこの活動を見ると、子どものためではあるけれど、母親のためでもあると感じます。平日働いていて、休日の仕事が休み、学校が休みの日に地域食堂に来て、子どもは子ども同士だったり大学生と遊んだり、お母さんは他のお母さんとの繋がりが「ミニニケーション」を持てる場所なので、月に1回、息抜きを出来る時間だったりするんです。お子さんを預け、久しぶりに夫婦二人で食事に出られた、といった話を聞いたこともあります。

Q 今後挑戦してみたいことはありますか。

弥生さん 子どもがもっとたくさん参加して、もっと賑やかに食べて遊んでもらえるような場所にしていきたいですね。そして私の退職後は毎日、「いつでも、誰でもきていいよ、お腹が空いたらおいで。」と伝える、子どもの居場所となる活動が出来たらいいなと思っています。